

課題名： 公民連携手法による次世代人材育成のためのプラットフォーム創設に関する研究  
 研究代表者：総合政策学部 准教授 新田義修  
 課題提案者：紫波町 企画課 主任 須川翔太  
 研究メンバー：植田 眞弘（岩手県立大学）  
 技術キーワード：公民連携、次世代人材育成、空き家、リノベーション（大規模な改修）

## ▼研究の概要（背景・目標）

1. 町の中心部の反映を他地域へ普及させるための取り組みが求められている。
2. 成功した公民連携手法によるオガールプロジェクトのノウハウを次世代人材育成に波及させる条件を解明する必要がある（図1）。

紫波中央駅前での大きな公民連携事業  
【オガールプラザ】

日詰商店街での小さな公民連携事業  
【横沢邸】

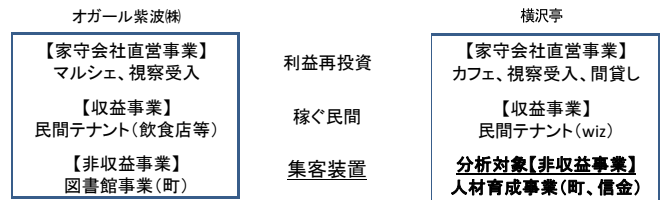


図1: 公民連携事業としてのオガールプラザと横沢邸(分析対象)の比較  
資料：須川氏作成

## ▼研究の内容（方法・経過）

1. 調査対象：紫波町役場、日詰商店街、sasatta.llc他
2. 調査内容：公民連携の課題と方法、次世代人材育成に必要な企画立案能力、クラウドファンディングなどに関する内容
3. 調査期間：2019年6月～2020年1月
4. 使用したデータ：総務省RESAS - 地域経済分析システム、役場資料他

表1: 紫波町人材育成事業のクロスSWOT分析

	強み	弱み
機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラウドファンディングによる資金確保</li> <li>オガールプロジェクトやリノベーションまちづくりで築き上げたネットワーク</li> <li>シェアオフィスに入居予定の民間テナントがあること</li> <li>協力的な商店街店舗の存在</li> <li>協力的な不動産オーナーの存在</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域おこし協力隊という立場を活かし、プロジェクトの認知を図る</li> <li>ワークショップの開催によるリノベーションの知識・技術の習得</li> <li>地域住民とのコミュニケーションによる理解促進</li> <li>県内教育機関との連携による学生ネットワークの構築・強化</li> </ul>
脅威	<ul style="list-style-type: none"> <li>町を訪れる若者の存在を活かした商店街の新たな担い手の育成</li> <li>シェアオフィスに入居予定の民間テナントによる確実な収益確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商店街との商品開発や業務提携による商店街の事業継続サポート</li> <li>イベント事業の充実による学生・若者の継続的な集客</li> <li>売上確保のための魅力的な商品開発</li> <li>多様な主体との協力と他事業者との差別化</li> <li>町の雇用創出と少子化抑制</li> </ul>

資料：調査結果より繁泉運作成。原典は、繁泉運（2020）：「人材育成のための効果的な手段の解明～紫波町を事例として～」令和元年度岩手県立大学総合政策学部卒業論文。

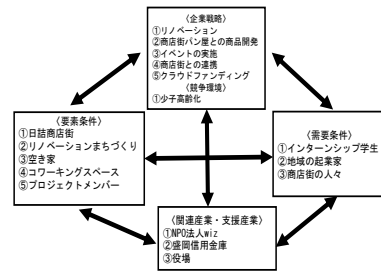


図2: 紫波町人材育成事業のダイヤモンド・モデル  
資料：調査結果より繁泉運作成。原典は、繁泉運（2020）：「人材育成のための効果的な手段の解明～紫波町を事例として～」令和元年度岩手県立大学総合政策学部卒業論文。

## ▼研究の成果（結論・考察）

1. 次世代人材育成は、①インターンシップによる人的資本の育成、②クラウドファンディング利活用による企画立案能力の向上、③まちづくり会社の設立の3つが要点であると推察される（表1）。
2. 公民連携手法は、次世代人材の確保が前提条件になると予想される（図2）。
3. リノベーションは、企画力や地域住民との社会関係資本が求められる（図2・3）。

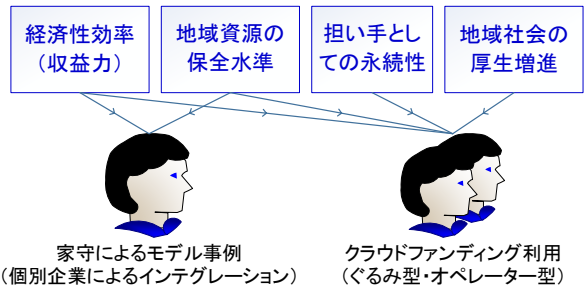


図3: 事例から導き出されるクラウドファンディングを利用した新規プロジェクト立ち上げに求められる条件  
資料：新田作成

## ▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 本研究で得られた成果をモデルとして、①人材確保、②事業計画作成能力、③人的資本形成能力が次世代人材育成のためのプラットフォームとして求められる条件であると示唆された。
2. 残された課題として、地域おこし協力隊の地域での受け皿機能を果たす社会関係資本の解明が求められる。
3. 調査実施にあたり、ご協力いただいた紫波町役場の皆様、sasatta.llc 社長南條亜依様に感謝いたします。